手紙

shuntarō tanikawa

谷川俊太郎

集英社

手紙

谷川俊太郎

集英社

手紙

一九八四年一月十日　第一刷印刷
一九八四年一月三十日　第一刷発行

著者　谷川俊太郎
発行者　堀内末男
編集　株式会社 創美社
印刷所　中央精版印刷株式会社
　　錦印刷株式会社
発行所　株式会社 集英社
　　一〇一 東京都千代田区一ッ橋二―五―十
　　電話　〇三―二三八―二八四二（出版部）
　　〇三―二三〇―六一七一（販売部）
定価　九八〇円
検印廃止　ISBN4-08-772464-6 C0092
© Shuntarō Tanikawa 1984
Printed in Japan

手紙

目次

時 7
手紙 8
あなた 10
接吻の時 12
梨の木 14
私の女性論 16
裸 21
もうひとつのかお 22
奏楽 24
肩 27
道二題 28
宙ぶらりん 30
未知 32
水脈 34
鎮魂 36
サーカス

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

道化 38／夢 39／魔術師 40／空中ブランコ 40
終りのない地平 43
二十行の木 49
種子 52
陽炎 54
色の息遣い
色 56／白 57／黒 57／赤 58／青 58／黄 59／緑 60／茶 60
音楽 62
疲労 64
carpe diem 66
眼 69
途次 70
アルカディア 72
息 74
魂の戦場 76
音楽の道 79

五月に　82
子どもと本　84
うたびとたち
与謝野晶子　86／石川啄木　88／上田敏　89／北原白秋　90
あとがき　93
初出一覧　94

口絵写真　谷川俊太郎
装幀・写真レイアウト　菊地信義

手紙

時

あなたは二匹の
うずくまる猫を憶えていて
私はすり減った石の
階段を憶えている

もう決して戻ってこないという
その事でその日は永遠へ近づき
それが私たちを傷つける
夢よりももっととらえ難い一日

その日と同じように今日
雲が動き陽がかげる
どんなに愛しても
足りなかった

手紙

電話のすぐあとで手紙が着いた
あなたは電話ではふざけていて
手紙では生真面目だった
〈サバンナに棲む鹿だったらよかったのに〉
唐突に手紙はそう結ばれていた

あくる日の金曜日（気温三十一度C）
地下街の噴水のそばでぼくらは会った
あなたは白いハンドバックをくるくる廻し
ぼくはチャップリンの真似をし
それからふたりでピザを食べた

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

鹿のことは何ひとつ話さなかった
手紙でしか言えないことがある
そして口をつぐむしかない問いかけも
もし生きつづけようと思ったら
星々と靴ずれのまじりあうこの世で

あなた

あなたは私の好きなひと
あなたの着るものが変って
いつか夏の来ているのを知った
老いた犬がものうげに私たちをみつめる午后
ひとっ子ひとりいない美術館へ
古いインドの細密画を見にいこう
菩提樹の下で抱き合う恋人たちはきっと
私たちと同じくらい幸福で不幸だ

あなたは私の好きなひと
死ぬまで私はあなたが好きだろう
愛とちがって好きということには
どんな誓いの言葉も要らないから

私たちは七月の太陽のもと
美術館を出て冷い紅茶で渇きをいやそう

接吻の時

きみは何を考えてるんだ
目をつむり
鼻をかすかにふくらませて
きみは何を考えてるんだ
ぼくのこと
それとも自分のこと
それとももっと他のこと
ぼくらの上に陽は輝き
ぼくらのまわりに
人々のざわめきがきこえる
だけどぼくらは
大昔のミイラのように抱きあって
それで幸せをつかむ気でいる

きみは何を考えているんだ
ひたいに汗をかき
眉をしかめて
きみは何を考えているんだ
未来のこと
それとも今のこと
それとも何も考えていないのか
ぼくらの上に夜が来て
ぼくらのまわりに
死者たちのうめきがきこえる
だけどぼくらは
真夏のつるのようにからみあって
それで愛をつかまえる気でいる
きみは何を考えているんだ
きみはぼくが何を考えているんだろうと
一度でも考えたことはあるのだろうか

梨の木

梨の木は本当だった
山羊も遠い山々も
重い木の扉も
小鳥の鳴声も

ただ私たちだけが
本当ではなかった
隠された不安
つくられた微笑

たがいの幻想に憩い
好みの飲物を啜り
真実を避けようと

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com